

秋の法要・仏教講話



去る9月1日(日)の午後1時～徳成寺において、秋の法要・仏教講話が勤まりました。超ノロノロの台風10号が、四国に上陸するなどして、一時期は開催も危ぶまれましたが、おかげ様で当日は、台風一過の残暑厳しい一日でした。お参り・お供え賜りました皆さんには心より御礼申し上げます。

今回感話して下さったのは、中村寿敏さんです。なぞなぞクイズに始まって、法名受式したことを踏まえて、参詣した

皆さんにも、帰敬式の受式と法名授与を勧めて下さいました。

今回のご法話は、まんのう町の慈泉寺の布教使で教誨師でもある片岡妙晶さんをお招きしました。布教使は、仏教の教えを説き広める使命を帯びた人です。さすがだなと思ったのは、声が大きくてよく通っていました。板書も、ご覧の通り大きい字で書かれるのでどなたにも分かり易かったと思います。

教誨師とは、罪を犯した人を教えさとするのが、そのお仕事です。



しかも更正ではなく更生してもらうのが目的なのだとか。どういう違いがあるかと言うと、悪い事は悪いとしつつも社会の中で安心して生きていけるように生まれ変わってもらうことなのです。

親に虐待やネグレクトをされて家庭の中に居場所がなく、安心感が持てなかった子どもが、生きていくために悪事を犯したり、悪い大人についていくしかなくて悪事に手を染めたりした人に社会の中で安心できる居場所があると気づいてもらうためのお仕事をしていま



そこから、今回のテーマである「布施(与えること)」に展開して下さいました。何かを与えると言うだけでは、布施は完成されないことをご注意下さいました。何か人に与えると、本当は上げたくもないのに無理をするからでしょうか、「何かしてやった」と思うのが大きな間違いだと。相手に「受けとめる心」があって、初めて完成されるのが布施という仏教の行です。つまり一方的にこちらから与えればいいのではなく、相手方に「受けとめる心」が開かれて初めて相互通行の関係が開かれていくところに他力が働き、自利利他円満という浄土真宗がめざすところが見えて来ると教えて頂きました。